

# 01

# 招致にあたって

## 1972年から現在

### ❄️ 札幌と1972年オリンピック

- 札幌1972大会は市民の誇りとアイデンティティを形成し、大会を契機に都市整備を推進、国際観光都市としての地位を確立
- 札幌はオリンピックをきっかけに発展し国内有数の都市にまで成長

1972年に札幌で開催された冬季オリンピックは、札幌のウインタースポーツシティとしてのプレゼンスを高め、国際化に大きく貢献するとともに、札幌のまちを大きく変え、市民の誇りとアイデンティティの形成につながりました。

札幌はこの大会を契機として、地下鉄南北線や地下街、高速道路や市内の道路網、環境に配慮した地域熱供給等、今も活用されているまちの基盤整備が進みました。

また、当時のさっぽろ雪まつりの様子が、大会の映像とともに世界中で紹介されたことをきっかけに、国内外から多くの観光客が訪れるようになり、国際観光都市としての地位を確立しました。

このように、札幌のまちは、オリンピックをきっかけに大きく発展し、今や約200万の人口を抱えるとともに、市民の愛着度調査や全国市町村魅力

度調査で常に高い評価を得るなど、名実ともに国内有数の都市と言えるまでに成長を遂げました。



©札幌市公文書館所蔵

### ❄️ 札幌が抱える課題

- 札幌は人口減少・少子高齢化への対応、共生社会の実現、インフラの更新、気候変動対策等の取組が必要

オリンピック・パラリンピックは、子どもたちに夢や希望を与え、世界平和や団結に貢献し、多様性への理解を促すだけでなく、開催地のまちの活性化を促します。

経済や社会制度が高度に発展し、必要なものやサービスが満たされた成熟都市へ成長した現在の札幌は、世界中から多くの観光客をひきつけ、また、多くの市民が住み続けたいと願う、内外から羨望の眼差しを送られる魅力に満ちた都市となりました。

しかし、現在の札幌は、人口減少・少子高齢化といった社会構造の変化や、共生社会実現のためのバリアフリー

化の推進、1972年前後に急速に整備され老朽化が進んだインフラの更新、世界的に直面している気候変動への対策等、今後も魅力あふれるまちであるために解決しなければならない多くの課題を抱えています。

また、北海道は、札幌への人口等の一極集中が顕著となっており、私たちを取り巻く状況の変化に先んじて対応しなければならない地域であると言えます。

これからの前例のない時代を迎えるにあたっては、一人ひとりが直面する変化を認識し、知恵をしぼり、力を結集する必要があります。



## 2030年は先の未来を見据えた札幌ならではの大会に

- オリンピック・パラリンピックは、大会の開催を契機として多くの力を集め、人々の思いを一つに束ねる世界最大級のイベント
  - 四季の明瞭な札幌で気候変動に関する取組を結集
  - 札幌ならではの文化を通じ子どもたちが夢や希望を抱くまちの実現
- 2030年までの期間は、札幌が持続可能なまちであるための礎を築いていく大切な道のり
- 都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会へ

オリンピック・パラリンピックは、単なる一過性のスポーツイベントではなく、大会の開催を契機として、市民、企業、行政等多くの力を集め、人種や性別、国籍の垣根を超えた人々の思いを一つに束ねることのできる世界最大級のイベントです。

大会の開催を通じて、多くの人々の力と思いを結集することで、既存の考え方にとらわれない発想の転換と先進的な取組を生み、ひいては、それが持続可能な社会を目指すための絶好の機会を生み出します。

例えば札幌は、都市機能と自然が調和した世界的にもまれな都市であり、1年の間に、雪解けの草花が芽吹く春、冷涼な気候で過ごしやすい夏、雄大な自然が織りなす紅葉が彩る秋、美しい銀世界に包まれる冬といった、四季折々の景色を感じられるまちです。このような札幌だからこそ、気候変動の脅威を身をもって感じることができ、オリンピック・パラリンピックを契機とした先端技術の導入や、市民一人ひとりの環境行動、意識の変容が期待できます。

また、子どもたちが、世界最高峰の競技の迫力やスピード感を目の当たりにすることで、「自分もやってみたい、頑

張りたい!」という気持ちが芽生えます。ウインタースポーツという、冬期は雪に包まれる札幌ならではの文化を通じて、子どもたちが夢や希望を抱くことのできるまちの実現につながります。

札幌市が開催を目指している2030年のオリンピック・パラリンピックは、SDGs(持続可能な開発目標)の目標年と同じ年です。その先の未来において、札幌が持続可能なまちであるためには、大会後の2031年以降にあるべきまちの姿を見据え、大会の開催とそれに至るまでの一連の取組を連動して進めていくことが必要です。これから2030年までの期間は、その礎を築いていく大切な道のりと言えます。

市民の笑顔があふれるこの札幌が、50年後、100年後の将来にわたって輝き続けるために、初のパラリンピック、2度目のオリンピックで「都市と自然が調和した雪のまちでSDGsの先の未来を展望する大会」の実現を目指します。

そして、この大会が実現することで、市民が愛着と誇りを持ち、将来も住み続けたいと思うと同時に、誰もが訪れたいと思うまちを創り上げたいと考えています。

